

# 「環境人材」の育成と貢献へのイメージ

経済社会の変革に向け、大学での「環境人材」の育成に着目

**青年よ、環境マインドを抱け！**

一般の学生(非環境専門家)

卒業後に社会人となり、社会生活や企業活動の中で、環境と経済の好循環を具体化する事業・活動を展開する人材の育成

専門コース・大学院の学生(環境専門家)

経済効率性の高い環境技術の開発、環境経営の展開、環境政策の立案等を進め推進する人材の育成

大学の卒業生の多くは、企業や行政を進路として選択し、社会形成の担い手として活動を開始

業務に環境配慮を導入  
SD型サービスの提供

環境保全・持続可能型  
新技術・新製品の開発

持続可能なアジアの実現

持続可能な社会の形成に寄与

環境負荷の低減、高い経済性

新製品の開発・新サービスの提供

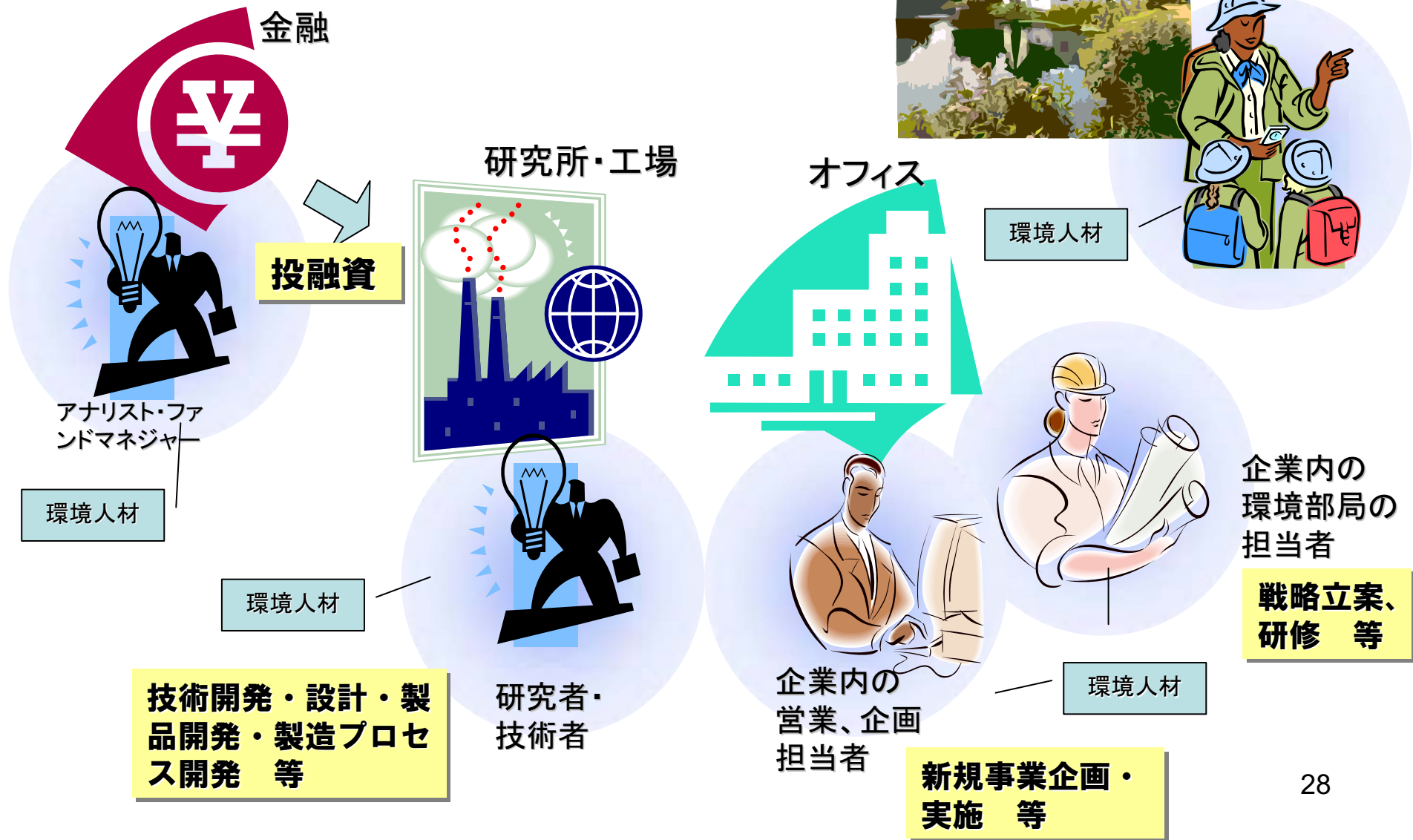
求められる環境人材のタイプ(仮説)

仕事・業務・職業などを通じて経済や社会のグリーン化に取り組む  
環境人材には、どんな意識・能力・技能が求められるか？

	大学(院)を卒業した一般の人材	大学(院)を卒業した環境専門家・技術者
日本	環境問題解決への強い動機 + 相対立する課題への 問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"><li>•持続可能な開発に係る専門知識と課題設定能力</li><li>•環境工学、環境政策、環境会計等のスキル</li><li>•国際的協調への理解</li></ul>
	それぞれでどのような環境人材が 求められているのか？	
アジア 諸国	環境問題解決への強い動機 + 相対立する課題への 問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"><li>•持続可能な開発に係る専門知識と課題設定能力</li><li>•環境工学、環境政策、環境会計等のスキル</li><li>•国際的協調への理解</li></ul>

議論のポイント

# 求められる環境人材のタイプのイメージ (受け入れ側の視点で整理)



必要となる「環境人材」のタイプは？

国別の検討が必要か？

業種別の検討が必要か？

専門分野別（技術者、営業等）の  
検討が必要か？

2010年（短期）、2025年（中期）  
2050年（長期）において活躍する環境人材の  
タイプをそれぞれ検討すべきか？